



2016-2017年度
東日本区 理事通信
第20巻11号
2017年5月1日



「理事メッセージ」

あいさつ

関東では、桜の花もあっという間に終わり、木々のミドリがまぶしい季節となりました。みなさまには、ワイズ年度の終わりに向け、お忙しくお過ごしのことと存じます。

さて、今月はEF（エンダウメント・ファン ド）、JEF（東日本区基金）の強調月間です。EFは国際協会の基金ですが、JEFは、東日本区ワイズ運動の継続的な組織と事業の発展のために、個人・クラブが記念すべき出来事、行事、慶弔時のときに、感謝の気持ちを表す拠金で成り立っている、東日本区独自の基金です。1997年に旧日本区の日本ワイズ基金等をもとに2,500万円の残高でスタートしました。これまで、ワイズ記念誌発行支援、国際大会・国際交流活動の支援として通訳機器の購入、YMCAの支援としてはYMCA東山荘100年募金への協力などを行ってきました。寄付をすると、寄付者名とその理由を「奉仕帳」に記帳し永久に保存するとともに、区報にも掲載します。

現在の残高は約1,500万円です。クラブチャーター、周年記念、IBC・DBC締結記念、役職就退任感謝、誕生日・結婚・お子さまの成長等の記念、病気快気、宝くじ当選、遺贈等どんな時にも、あなたの感謝の気持ちを表す機会として献金をお願いいたします。

第3回役員会が開催されました。

去る4月8日（土）、9日（日）に、川越市伊佐沼にある“えすぼわーる伊佐沼”を会場として、第3回役員会が開催されました。折しも、伊佐沼周辺は桜の花が満開で、役員の日と心を楽しませ、和ませてくれました。

今回の役員会には議決権保持者16名中13名が参加し、役員会構成メンバーの25名が加わり、計38名の出席となりました。また、次期役員会のメンバーも18名ご参加いただき、次期への準備を進めていただきました。

役員会では、12件の議案が審議され、可決されました。詳細は各クラブ会長に議事録を送信済みですので、そちらをご参照ください。





写真は、大川貴久ワイズ（熱海）の提供です

東西日本区理事連絡会議開催

毎年恒例の東西日本区理事連絡会議が4月15日（土）にホテル・クライトン新大阪で開かれました。両区の現、次期キャビネット、事務所職員等18名が参加し、両区の今期の活動状況、次期

の活動方針等の情報交換や国際大会、翻訳・通訳などの協力・調整事項等について協議しました。

東日本区大会まで1か月

第20回東日本区大会まであと1か月となりました。今年のテーマは「温故知人～明日に向かって新しい出会いを」です。これまでの20年を振り返るとともに、これからに向かってよい出会いがあるよう、現在、実行委員会で工夫をしています。4月28日現在の登録者数は395名です。ひとりのご登録も無いクラブがまだ7クラブあります。登録はまだ間に合いますので、ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしております。

理事 利根川 恵子

新しい仲間

下記の方々が2017年4月1日以降に新しく入会されましたので紹介します。心から歓迎します。

（敬称略）

- 4月11日 菅谷 淳（東京）東京YMCA総主事
- 4月11日 三浦壮一郎（東京たんぼぼ）担当主事
- 4月14日 熊谷光彦（茨城）
- 4月19日 岩田幸雄（長野）
- 4月22日 大津桃子（東京サンライズ）担当主事

募金

下記の献金がJEFに捧げられましたので、感謝をもってお知らせします。

- 3月19日 田中博之（東京多摩みなみ）東西日本区交流会感謝

- 3月29日 駒田勝彦（甲府21）①東日本区監事のご奉仕をさせていただいた感謝
②我家金婚式をむかえた感謝として
- 4月6日 利根川恵子（川越）夫の無事定年退職に感謝して
- 4月6日 金子 功（横浜）JEF委員を拝命して
- 4月12日 尾内昌吉（東京山手）①米寿を迎えて
②東日本区ワイズ基金運営委員を1年勤めて
③あずさ部会計を1年勤めて
- 4月25日 小原武夫（東京世田谷）① 家族皆元気に過ごせるように ②孫は9歳になり、4年生です ③ これからも、YMCA、ワイズ活動が楽しく続けられますよう。

東日本区事務所 小山 憲彦

=====
**「国際マラリア・デイ」と「RBMへの献金
総額のお知らせ」**

常日頃のワイズダムへのご奉仕に対して心から感謝申し上げます。

4月25日は「国際マラリア・デイ」で、ご存知の如く、国連（UN）の「持続可能な開発目標」の一つとして、RBM(ロールバックマラリア)を赤十字社、新月社、ユニセフ等々と一緒に“マラリア撲滅”に向かって取り組んでおります。

ワイズメン国際協会（YMI）より発信された最新の情報によりますと、
*2015年マラリアに罹った人数は：2億1千200万人

*死亡者数は：429,000人（その内5歳未満が70%）

*情報の出所は：WHO World Report

(1) 上記罹災者数及び志望者数はお陰さまで減少の傾向にあります。

—2010年と2015年を比較して、
罹災者数で21%減少し、死亡者数で29%減少しています。

(2) 対策は殺虫剤を含んだ「蚊帳」と「スプレー」を使用することで減少しています。

(3) 但し、依然としてアフリカ、サハラ砂漠以南の地域が重大発生地域です。

—これらの地域には約6億6千万人の人口があり、43%の多くの人々が感染のリスクに晒されており、しかも69%の妊婦さんが感染予防対策へのアクセスすら出来ない状態です。

(4) マラリアは防ぐ事が出来、治療できる病気です。(Malaria is a preventable & Curable disease)

今期、皆様からのRBMへの献金総額はなんと869,400円(4/27東日本区事務所小山さんからの報告)を献金していただきました。皆様、並びに国際・交流事業主査の皆さんのお働き、ご努力に対して深甚より感謝申し上げます。

この貴重な献金はジュネーブの国際協会本部に送金され、有効に使われます。ワイズメンズ国際協会でも累計目標50万スイスフランに近づいている(We are close to Achieving out CHF500,000 target by the end of June 2018.)と報告されています。

どうか、この機会に、国際貢献・国際協力の一環として蚊帳ひと張りでも多くの“命”を救うことが出来るRBMへのご理解を深めていただきたく、お願い申し上げます。

感謝しつつ、

国際・交流事業主任 太田勝人（東京世田谷）

=====
地域奉仕事業について

日頃のご励功、有難うございます。CS主任の加藤です。今期、利根川理事の方針に則って、「IBC発CS、EMCへ～IBC活動の促進で国際化を

絡めた活動の構築を推進しEMCを達成しうるCS」、主な方針は理事方針に基づいて、1 クラブ拡張と会員増強のためのCS活動、2 部の強化・活性化のためのCS活動の推進、3 YMCAとの

協働の強化のためのCS活動、4 スリムな区の運営のためのCS活動。国際・交流とも連携しましてオールインワンで臨む。重点事業と致しましては、既存のクラブ対抗、CS活動フォトコンテスト（継続）の実行と結果の告知力アップ、使用済み切手引継となったプルトップ収集等も地域とのコミュニケーション継続として有意義。各クラブの既存CS活動の見直し、規模の拡大・ミーティングの奨励と参加の推進を促進。

上記を掲げ出発しましたが、結果としては、いつどのクラブが、どこで、どんなCS活動をされているのかは詳しくはわからないまま、現在に至っています。地域YMCAの行事に参加されているのか、または広報するまでの活動はあまり無いのか判断できず、時事のアピールがありませんでした。よってCS委員会としても、特にバックアップすることができませんでした。即ちすぐに会員増強に効果のある活動できなかったということになりました。活動紹介を問いかけた側からすると非常に心配になりました。当然役員会議ではCS活動の結果を把握・報告しなければなりません。事実上無かったのです。メンバー数も予算も少なく何もできなかったのでしょうか。結局自由献金等の報告しかできず、表彰材料や対象も限られてしまいます。期首から奨励した写真コンテストはコンテストの為だけの活動ではありません。活動を目で訴える力で後押ししたかった

のです。反応も反響もあまりにも少なかったのです。ブリテンを拝見しているとYMCAしかしサービスは勿論、魅力的な報告が沢山ありましたので、大変楽しみにしておりましたが、。

残ったのは本選での過ぎ去った過去のアピールだけになります。私たちは本当に会員増強を望んでいるのでしょうか、実は現状にとっても満足されている方もあるのではないのでしょうか。このままだと当然会員は減り続けます。そもそもCSでEMCというのは本筋ではないのかも知れません。EMCは個人の意識によるところが大きいと思います。しかし良いものは自ずと広がるものであると信じます。ぜひ、CS委員会を活用せずとも、社会に渦を作って行って頂けたらと願うばかりです。区から部へという流れの中で事業主任や委員会のウェイトも目に見えて下がっているように感じますが、全体の活性化の中で進めてきたことです。部から主任への報告ルートを設定すべきかもしれませんが、フォト募集程度の働きかけだけで各クラブの値域奉仕活動をアピールしていきたいものです。任期も少なくなってきましたが、宜しくお願い致します。

東日本区地域奉仕事業主任 加藤博（熱海グロリー）

オープン・フォーラム・Y開催。

第6回目となるオープン・フォーラム・Yが5月14日（日）に開催されます。開催形態や開催テーマは変化しているものの6回目を迎えることができたのは、東日本区のワイズの皆様のご理解とご協力によるものです。深く感謝申し上げます。さて、今回のフォーラムは、子どもたち一人一人に寄り添う学習支援活動をされている所沢クラブの大澤さん

や、東アジア共生をテーマとして活動している東京大学の長川さんなどを講師としてお迎えし、日本YMCA大会で基調講演をいただいた鈴木洋一さんにファシリテータをお願いして、種々の社会問題を若者たちに伝え、新たな一歩を踏み出すことを目的としたものとなっています。本原稿作成時点で、ワイズメンを含んで30名の参加が予定されています。傍聴だけでも結構ですので、ぜひご参加ください。

第6回 ワイズメンズクラブ東日本区 主催
Wake Up Japan 協力
オープン・フォーラム・Y

参加者一人ひとりが現場の人の声を聞き社会的課題を自分のこととして認識し、新たな一歩を踏み出す

日時 2017年5月14日(日)10:00-19:00(開場 9:30)
場所 藤井産業 東京支店(東京都千代田区内神田1-2-10 羽衣ビル3階)
対象 社会問題の解決に関心のある高校生、大学生、及び若手会社員
定員 30名
参加費 高校生 100円/ 大学生 500円 / 若手会社員 1,000円

時刻	時間	セッション名	特記事項
09:30-10:00	30分	開場、受付	
10:00-10:30	30分	開会式、アイスブレイキング	
10:30-12:00	90分	オープニングセッション 東南アジアの難民の方 長川美里さん(東アジア共生) 大澤和子さん(学習支援)	社会問題に関するパネル・ディスカッション -問題解決に対する思い -問題の構造的な要因 -構造的に解決していくためにユースとどう協力していくか
12:00-13:00	60分	インシュア別食事	トピックごとにテーブルを用意し、話し合いを行う。
13:00-13:30	30分	昼休み	昼後のセルフケアの時間。
13:30-14:20	50分	社会問題の解決方法と若者	Wake Up Japan 鈴木より、社会問題の解決方法と若者をテーマにした講演と質疑応答
14:20-14:30	10分	イントロダクション	午後の分科会の紹介
14:30-15:45	75分	分科会セッション	大澤和子さん(一人ひとりに寄り添う学習支援) 栗谷しのぶさん(原発事故による放射能被害と法) 他
国内外的な社会問題に対する理解やその問題解決を目指すうえでスキルトレーニングなど、参加者が興味のある分科会を自由に選んで参加することができます。			
15:45-16:00	15分	休憩	
16:00-18:00	120分	Unconference 【オープンディスカッション】	社会を変えていくためにというテーマで、参加者が話し合い たいトピックを発表して分かれて話し合いを行います。 10分(説明とトピック紹介) 30分(話し合い)⇒20分(共有とトピック出し) 30分(話し合い)⇒20分(共有)
18:00-18:40	40分	クロージング・ワークショップ	
18:40-19:00	20分	閉会式	感謝の共有と閉会の言葉

お申込 **お申し込みは5月10日までにお願ひします**

お名前		所属	
連絡先			
申込先	メール:t.ookubo@hh.fujii.co.jp FAX:028-662-6063		

 ワイズメンズクラブは、青少年育成団体である「YMCA」の活動を支援することを第一の目的として、地域・国際社会に奉仕する国際的なボランティア団体です。
<https://ys-east.jimdo.com/>

アジア・太平洋地域・ユース・コンボケーション参加者が決定。

7月19日～23日で開催されるアジア・太平洋地域・ユース・コンボケーションに次の6名の方の参加が決定いたしました。

宇都宮クラブ推薦

川口夏奈子さん(とちぎ YMCA 白鷗大学2年)

宇都宮東クラブ推薦

長尾真弥さん(とちぎ YMCA 職員)

武蔵野多摩クラブ推薦

廣瀬匠さん(東京 YMCA 職員)

東京北クラブ推薦

平川真友美さん(清泉女子大 YMCA)

東京八王子クラブ推薦

渡邊敦さん(中央大学 YMCA)

茨城クラブ推薦

田島亮雅さん(茨城 YMCA)

4月22日には、オリエンテーションが行われ、昨年のインターナショナル・ユース・コンボケーション参加者も加わり、利根川理事による英語でのワイズ理解、長澤 TC による旅行行程の説明を受け、コンボケーションでの役割がグループ内で話し合われ、参加準備が順調に始まりました。今後、5月14日のオープン・フォーラム・Y、6月3日の東日本区大会に参加し、ワイズ理解などの準備を進める予定です。区大会などで見かけたら、是非お声かけください。



東日本区ユース事業主任 大久保 知宏(宇都宮)



YMCA だより

連絡主事 光永尚生

今年は、桜前線が北上する時期に、南下したり蛇行したりしたようにも思える日が続きました。4月の役員会では川越、東京の四ツ谷の桜ののち熊本に戻り、しばし熊本城の桜から再び、四谷界隈の桜パート2に出会いさらに、御殿場に戻ってから、8分咲きの桜に出迎われました。例年、桜祭りは終わっている時期なのですが、1週間以上の遅れで、イースターの時期に御殿場の東山湖はじめ多くの名所で桜祭りがおこなわれました。今年は、延べで2週間の桜が堪能できたことは幸いでしたが、4月16日のイースターの日、まさに、1年前に熊本地震の本震が発生して、自分自身も本震の際に益城町総合体育館に滞在しており、身体ごと壁と机に飛ばされ挟まれたことを昨日の日のように思い出しました。この1年を振り返り改めて、全国のワイズメンの皆様にお支え頂き、励まされたことを改めて感謝し、お礼を申し上げます。

熊本YMCAには、10のワイズメンズクラブとの強い絆がございますが、絆という字は、糸の両端がバランスよく引き合いながら進めていくことの大切さを教えてくれています。これまでの、キヤッチボールによる適度な緊張感を持ったすばら

しい関係性は、これからももっとも大切なワイズメンズクラブとYMCAの働きであることは想像に難くはないでしょう。それぞれが、「置かれた場所で咲きなさい」という、亡くなられた渡邊和子さんのお働きのように、与えられた賜物が最大に生かされることを願い祈りの中で今後とも良き働きが進められれば幸いです。

最後になりましたが、2つのご報告をさせていただきます。

1. YMCA 東山荘の100周年募金は、2017年3月に予定の期間を終了いたしました。最終的には、目標額である、1億円を達成できました。また、延べで1000名以上の全国からの尊いご奉仕によって、このすばらしい賜物を与えられ、これからも老若男女が集う場所が与えられ続けていくことに感謝と御礼を申し上げます。

2. もうひとつは、2019年9月、にアジアのYMCA大会が、日本で開催されることが3月のアジア太平洋YMCA同盟の会議で決議され正式に決定いたしました。アジアから、150名程度のユース、400名程度の参加者を、日本のYMCAとして受け入れるために、ワイズメンズクラブの皆様にはご協力をお願いしていくこととなります。引き続き宜しくお願いいたします。いつもありがとうございます。